



日本語訳によせて

UICC 日本国内委員会委員長、UICC 理事
北川 知行

このパンフレットは UICC（国際対がん連合）が 2008 年 2 月に出版した“たばこの煙から子どもたちを守るには”(Protecting our children from second-hand smoke) の翻訳である。UICC は、その活動の一つとして、近年小児期からのがん対策キャンペーンを張っているが、パンフレットの出版もその一環である。

喫煙は、健康を害する最大の悪習であるが、その害が喫煙者個人にとどまらず、間接喫煙により非喫煙者にもおよぶことは、由々しき社会問題である。その害は、最も感受性が高い子どもたちにも、容赦なく降りかかっている。

このパンフレットは全て専門家が執筆している。子どもたちがいかにタバコに曝され健康を害しているか、タバコの煙の中にはどのような有害物質が含まれているか、レポートはつぶさに記載している。これを読めば、間接喫煙がいかに子どもの発育障害や呼吸器疾患に関わっているかがよく判る。がんに関する記載はないが、それはおそらく、まだ疫学的研究の成果が定まっていないので控えているからであって、化学発がんの常識からいえば、子どもの間接喫煙は、必ず成人になってからの発がんリスクの増加に絡んでくる。子どもの間接喫煙の実態に関して、従来まとまった報告がなかったので、このパンフレットは、子どもの間接喫煙に関心を持つ人々にとって大変良い資料となる。

パンフレットはさらに、子どもを間接喫煙から守るために、われわれに何が出来るか、また何をすべきかを教えてくれる。最も重要なことは勿論、子どもの生活環境からタバコを一掃することである。学校を含む公共施設だけではなく、家庭からもタバコを追放しなければならない。ではどのようにして？

私たちはこのパンフレットから多くを学びながら、日本としての独自の戦略も編み出して行く必要がある。

今回これが日本語に翻訳されたので、多くの方々にお読みいただき、子どもの間接喫煙の問題に対する理解を深めると共に、運動を進めて行く時の資料に使っていただけるようになった。翻訳と企画の労をとって下さった国立がんセンター望月友美子氏と大阪府立成人病センター大島明氏、そして小児科医の立場から多大なるご協力をいただいた「子どもをタバコの害から守る」合同委員会には深く感謝する。